



日本共産党
北茨城市委員会
浦原町並田100-7
毎週日曜日発行
インターネットでも
ご覧いただけます
<http://www.jp-kifu.com/>

ご相談は
お気軽に
市議会議員
福田 明
43-0468
市議会議員
鈴木やす子
42-2462

まちに元気を 人に平和を

市民みずからの手づくりで

きこば
きこば

ひな灯り展

2月14～20日、市内のギャラリーとアトリエでつくる「そぞろなつ」と「ひな灯り展」が開催されました。常設の店舗での展示・即売のほか、今回「自身のアトリエを公開する」という方、あわせて5カ所をまわるマップも準備されました。それぞれ趣向を凝らしたディスプレイが目を楽しませてくれます。温かく優しい空間が生まれ、訪れる人たちもゆったりとした時間を楽しんできました。

「個々のお店の企画を一緒にして、一日を北茨城で楽しんでもらおう。」

「茨城新聞」(2/16)から

5カ所でのひな灯り展 北茨城

「ひな灯り展」は、市民みずから手づくりで、まちに元気を、人に平和を届けるという思いで開催されています。今年も、市内のギャラリーとアトリエでつくる「そぞろなつ」と「ひな灯り展」が開催されました。常設の店舗での展示・即売のほか、今回「自身のアトリエを公開する」という方、あわせて5カ所をまわるマップも準備されました。それぞれ趣向を凝らしたディスプレイが目を楽しませてくれます。温かく優しい空間が生まれ、訪れる人たちもゆったりとした時間を楽しんできました。



初対面でも平和への思いを共有できた「つどい」

「北茨城・九条の会」つどい

発会のつどい

2月16日(土)、市防災センターにおいて「北茨城・九条の会」の発会のつどいが開かれました。30名が参

加し、発足までの経緯と、「会」の申し合わせ活動のすめ方などの提起の後、DV・イラク・戦場からの告発を鑑賞しました。雨情の童謡などの唱和を皆さんで、参加者全員から自己紹介、平和への思いなどが語られました。世話人の方からは、事前に豊田市長にも面談し、「核兵器廃絶・平和都市宣言」にふさわしく平和を守るまちとして、市の協力もあおぎ、イベントなどの活動をするための旨の懇談をしたことも報告されました。



案内の八ガキから

本紙2月10日号で報じたように日本共産党市議団は「公立病院改革ガイドライン」について総務省、厚生省から説明を受けました。その概要について紹介します。全国で、自治体病院の数は1047。全病院数の約12%です。うち8割が赤字経営となっています。この改善が急務として総務省が昨年12月に策定し、各県・市に通知したのが今回の「ガイドライン」です。自治体病院の役割を度外視し、次の3点が示されています。

「経営の効率化」で給与・定員管理の適正化、経費の節減合理化、病床利用率の向上による収入確保をはかる。「再編・ネットワーク化」で基幹病院とサテライト病院・診療所間の機能分担を徹底し、そのために地域での公立・公的病院の統廃合をすすめる。「経営形態の見直し」で民間的経営手法を導入し、指定管理者制度や地方独立行政法人化への移行、あるいは民間への事業譲渡をはかる。

この内容に沿って、20年度内に各自治体では病院の経営指標に関する「改革プラン」を策定するよう促されています。公立病院への国の支出も減らす考えです。さらに、病床利用率が70%未満の病院は病床数を減らすよう求められています。北茨城市立総合病院は18年度決算で病床利用率が49.5%であり、県内の他の自治体病院も40～50%というのが実情です。大変な中で地域医療を守るために努力している病院の経営をいっそう圧迫するのが、「ガイドライン」の実態です。

日本共産党市議団は、「自治体病院の経営悪化の最大の原因は、深刻な医師不足と診療報酬の引下げによるもので、国の責任は重大である。この抜本的な解決が急務である。ところが政府が示したガイドラインは、経営が改善されない病院は再編して縮小または廃止し、場合によっては民間に売り払えというものである。地域医療を守る責任を国みずから放棄したに等しい方針であり、認めるわけにはいかない」と述べています。

市民の病院をまもろう 厚生労働省がすすめる「ガイドライン」の問題点